

1992年 春季大会に向けて

6/13(土)・6/14(日)

シンポジウム

“アジアの女性学をつくる”

上野千鶴子・鄭暎恵・藤枝滯子・船橋邦子

アジア女性会議を終え、その盛り上がり
を春季大会シンポジウムテーマに結実させ
ました。また、同会議に参加できなかった
方の為に、大会2日目には「アジア女性会
議報告」のプログラムを設けました。ワー
クショップは、昨年の「均等法5年——女
は働きやすくなったか」を受けてのセッシ
ョンを企画、また学会誌創刊号刊行にとも
なう関連ワークショップもあります。

総会では、第7期幹事への交代、次年度
の活動について話し合いなど。
より多くの方々の参加を求めます。

※大会プログラム、要領、会場案内等は最終ページに掲載。コピーの上、大会案内としてご活用下さい。

*

アジア女性会議で学んだこと

船橋 邦子

アジア女性会議は“創りだそう女たちのアジアを”を
テーマとして4月2日から4日の本会議、続いて全国6
ヶ所の地域会議に、延べ5000名を越す女性が参加しまし
た。この会議を契機として、アジア各地の女性たちの経
験を学び合い、励まし合い、力をつけていくための広範
なネットワークも誕生しました。

日本女性学会は1991年秋季大会において、アジア女性
会議のプレコンファレンスとして“従軍慰安婦・キーセ
ン観光・在日朝鮮韓国女性”をテーマとして、日本の私
たちがアジアを考える時に不可避である問題を取り上げ
ました。今回のシンポジウムは、その延長線上に位置づ
けられ、具体的に、いかに、どう、アジアの視点を女性
学に取り入れていくか、その第一歩となるものです。

その意味で上野さんから“戦争の憶え方”を学び、鄭
さんから“日本の戦後のあり方”への提起を聞き、藤枝
さんから、日本の私たちが“何をなすべきか”を考える
ための提起をしていただく予定です。

ポストモダニズム、欧米の脱中心主義が叫ばれる現在、
東洋と西洋の二項対立を止場し、日本の私たちにとって
のアジアを、アジアの女性学を考え、それを深める契機
にしたいと考えています。

戦争の憶え方——ドイツの場合

上野 千鶴子

'91年4月から'92年3月までドイツ在住。一年間のドイ
ツ在住の経験は戦争の傷跡と戦争責任のとり方の彼我の
ちがいについて、私に多くのショックを与えました。強
制収容所の保存や教科書の戦争記述などについて、スラ
イドをまじえてお話ししたいと思います。そしてその中
から日本に何が学べるかを、ともに考えていきたいと思
います。

『未だ来ぬ戦後』

——「在日韓国朝鮮人」と国籍処理——

鄭 暎恵

戦争中、日本は朝鮮人を強制連行しておきながら、終
戦で不要になれば一転して彼らを強制排除することを考
えた。さすがに実行できなかったが、その代わり旧植民
地出身者から一方的に日本国籍を剥奪するという巧妙な
排除を行った。日本国籍を剥奪する——それは日本が彼
らへの主権を放棄することであると同時に、彼らへの義
務をも放棄することでもあった。つまり、それによって、
彼らへの戦後補償の義務を放棄し、「外国人」にしてしま
うことで外登法・人管法を適用して彼らを管理・排除す
ることを容易にした。日本国籍剥奪は、「在日韓国朝鮮
人・中国人」に再び「戦前」をもたらしたのである。

アジアの女性学を創るために

藤枝 滯子

日本と他のアジア諸国との共通項は、ジェンダーにお
ける支配、被支配の関係である。

この力関係の構築、再生産、補強、隠蔽のされ方は、
それぞれの社会の歴史的、経済的、政治的、宗教的な要

因によって異なった形をとっている。女性学はこの構造化された力関係の変革を旨とするものである。とするなら賃金の不平等、家事、育児等の性分業を含みこむ人権貧困としての日本社会のあり方を変えるために何が必要か、そのための概念枠組、目標、行動を考えることが、アジアの女性学を創るための第一要件ではないだろうか。

ワークショップ

「女の働き方を考える」

問題提起者——田中和子、平川和子、深沢純子、
右衛門佐美佐子

昨年日本女性学会春季大会で、私たちはシンポジウム「均等法5年——女は働きやすくなったか」を企画しました。均等法施行後、職場は、私たち女性にとって本当に働きやすいものになったのだろうか？——この問いに対するパネリストたちの回答は、必ずしも肯定的なものではありませんでした。男女の賃金格差にはさしたる改善がみられぬまま、労働時間は長時間化し、女性の雇用・処遇形態は分極化と細分化の一途。その結果、女性間の新たな差別構造が形成されつつある……。

こうしたネガティブな状況をのりこえ、ポジティブな展望を切り拓いていくにはどうすればよいのか？その糸口を探るために、参加者全員で議論をしてみたいと考えています。

今回は、働く女性とストレスの問題、職場の人間関係、組合活動、個人の働きがいと企業の価値観など、現場での問題に日常的に取り組む方々から話題提供をしていただく予定です。

様々な立場、興味を持つ多くの方々の参加を呼びかけます。

幹事選挙結果の報告

先に行なわれた第七期幹事選挙の結果、下記の方々が第七期選挙選出幹事を受諾されましたので、会員のみなさまにご報告いたします。

新幹事の決定は得票数上位の方より幹事の任の諾否についてうかがい、辞退者がある場合は次位の方に順送りでしょうかい標記の結果となりました。

◎第七期選挙選出幹事（92年6月より2年間）

秋山洋子、井上輝子、漆田和代、落合恵美子、楠瀬佳子、国信潤子、桑原糸子、小林富久子、諸橋泰樹、右衛門佐美佐子 以上。

なお全開票結果は以下のとおりです。

- ・開票日 1992年3月22日
- ・場所 東京都女性情報センター集会室
- ・開票者 江種満子、西山千恵子、深沢純子、船橋邦子
- ・投票総数 77
- ・開票結果

31票 井上輝子

- 21票 秋山洋子、江原由美子
- 20票 小林富久子、田中和子
- 18票 平川和子
- 17票 館かおる
- 15票 落合恵美子、国信潤子
- 14票 小松満貴子
- 13票 桜井陽子
- 12票 右衛門佐美佐子、田嶋陽子
- 11票 青木やよい、上野千鶴子
- 10票 漆田和代、諸橋泰樹、北沢杏子、桑原糸子、しまようこ
- 9票 河野貴代美、楠瀬佳子、萩原弘子、樋口恵子、三木草子
- 8票 松原純子、円より子
- 7票 井上治代、亀田温子、田中喜美子、水田宗子、溝口明代、三井マリ子
- 6票 大賀美弥子、亀山美知子、河出美枝子、白井堯子、田川建三、波田あい子、水田珠枝、矢木公子、渡辺和子
- 5票 上村千賀子、賀谷恵美子、久場嬉子、ジェニソン・レベッカ、富岡明美、根岸愛子
- 4票 秋山登代子、池田幸子、伊藤セツ、牛島光江、江種満子、戒能民江、駒尺喜美、田口瑛子、竹中恵美子、田中かず子、長沖暁子、富士谷あつ子、善積京子
- 3票 猪飼美恵子、今井泰子、岩本裕子、大脇雅子、岡谷よし子、小野清美、北村節子、エリザベート・ゴスマン、鳥居千代香、村瀬春樹、矢野由美、山口真、ゆみこ・むらせ・ながい、ダグラス・ラミス、渡辺澄子
- 2票 秋本雅代、岩本美砂子、大村芳昭、上村雅子、木村くに子、エリザベス・クラーク、小島英子、小林真理、高野フミ、千葉もと子、中山和子、西山千恵子、野口英子、服部範子、林千章、福井浅子、細谷実、キャサリン・プロデリック、村上益子、山本コータロー、渡辺みえ子
- 1票 青島祐子、伊東秀子、岩淵宏子、薄井篤子、大西律子、大橋照枝、金子幸子、工藤和子、窪田信子、向後紀代美、小松加代子、小山美沙子、坂田千鶴子、佐藤啓子、島木葉子、志村緑、鈴木みどり、関礼子、畝地芳子、高橋ますみ、高浜公美、竹内陽子、田中百合子、鶴田早苗、長江曜子、中津川友子、中野恵美子、中村悦子、南条睦子、西堀わか子、沼沢和子、橋本ヒロ子、長谷川禮子、肥田美佐子、平鍋宏子、前田知子、前原澄子、柳美代子、山宮康正、山本有紀乃、米山眞梨子、クリスティン・ラマール 以上。

事務局より

◎会員の著作

①江種満子・漆田和代編『女が読む日本近代文学 フェ

- ミニズム批評の試み』新曜社（執筆：小林富久子、田嶋陽子、坂田千鶴子、千種・キムラ・スティーブン）
- ②井上輝子『女性学への招待 変わる／変わらない 女の一生』有斐閣
- ③内藤和美：〈女性比重の増大化〉を構成する女性の態度変容。昭和女子大学女性文化研究所紀要、9：59-70, 1992
- ④大橋照枝『ニューシングルズ・パワー——マーケティング+女性学の視点でみる——』東急エージェンシー、'92。
- ⑤加藤春恵子、津金澤聰廣編『女性とメディア』世界思想社、'92。
- ⑥小林富久子 “Women Writers and Feminist Consciousness in Early Twentieth Century Japan” Feminist Issues, Fall 1991, Transaction Consortium, Rutgers University.

お待たせしました！

日本女性学会学会誌 『女性学』 創刊号 刊行される！

内容

《論文》

- 河野貴代美：エレン・ウェストの症例 拒食症をめぐって
- 岩本美砂子：生殖の自己決定権と日本の政策決定 1990年妊娠中絶期間 2 週間短縮をめぐって
- 今井泰子：〈主婦〉の誕生 主婦概念の変遷—日本の場合

《情報》

- 北沢杏子：見てきた、聴いてきた、統一ドイツの刑法218条（墮胎罪）反対運動
- 船橋邦子：創り出そう女たちのアジアを アジア女性会議日本開催にむけて
- 三井マリ子：アファーマティブ・アクション
- 福井浅子：日米文化のかけ橋 2人のフェミニスト・マネージャー
- 田中和子：均等法5年—女は働きやすくなったか《学会12周年日に寄せて その歩みと将来への展望》
- 藤枝濠子：学会創立のころ
- 駒尺喜美：日本女性学会発足の頃の思い出
- 小林富久子：日本女性学会設立と雑誌『フェミニスト』の思い出
- 松原純子：性差の哲学
- 桑原糸子：日本女性学会への期待
- しま・ようこ：視点から方法へ 日本女性学会の研究動向を振り返る
- 学会の歩み 大会を追って

《書評》

- 内藤和美：「性差別主義と戦争システム」
- 右衛門佐美佐子：「女性VSテクノロジー」
- 深澤純子：「この胸の嵐—英国ブラック女性アーティストは語る」
- 國信潤子：21世紀「不安の時代」の地球フェミニズム アメリカのフェミニズム誌レビュー 「Ms.」「SIGNS」
- 中島美幸：日本におけるフェミニズム詩「いしゆたる」「ラ・メール」を中心に

☆会員の皆様には少なくとも1冊以上お買い上げ下さいますよう！できれば数冊お引きとり頂き販売して頂けますなら幸いです。購入ご希望の方は下記執筆者、幹事、編集委員にご用命下さい。

～学会誌を預かっている人～

秋山洋子、今井泰子、岩本美砂子、上村千賀子、加藤春恵子、河野貴代美、北沢杏子、桑原糸子、國信潤子、小林富久子、小松満貴子、しま・ようこ、田中和子、内藤和美、中島美幸、平川和子、深沢純子、福井浅子、藤枝濠子、船橋邦子、松原純子、三井マリ子、諸橋泰樹、右衛門佐美佐子

◎販売管理責任者 諸橋泰樹

◎頒価 1割引きで1,800円+送料210円=2,010円

◎代金は、買った人にお支払い下さい。販売管理責任者に直接お申し込みの場合は「郵便振替・東京4-561997 日本女性学会誌会計係」へお振り込み下さい。

1992年 日本女性学会 春季大会へのご案内

会期：6月13日(土)、6月14日(日)

会場：早稲田大学国際会議場(早稲田大学図書館隣り)

東京都新宿区西早稲田1-6-1 TEL 03-3203-4141(代)

第1日 受付 13:00～ 非会員参加費 1,000円 学生無料

〈シンポジウム〉 13:30～16:30

“アジアの女性学を創る”

船橋邦子 (コーディネーター&シンポジスト) 「アジア女性会議で学んだこと」

上野千鶴子 (シンポジスト) 「戦争の覚え方 ドイツの場合」(スライドあり)

鄭 暎恵 (シンポジスト) 「未だ来ぬ戦後——“在日韓国朝鮮人”と国籍処理」

藤枝濤子 (シンポジスト) 「アジアの女性学を創るために」

〈総 会〉 16:30～17:30

〈懇 親 会〉 18:00～20:00 (申し込み者のみ) 於 アバコ・ブライダルホール 参加費6000円

第2日 受付 9:45～ 非会員参加費 1,000円 学生無料

〈午前の部〉 10:00～12:00

「1992年アジア女性会議報告」

——動き始めたネットワーク——

報告者：本会議各分科会のモデレーター

司 会：館 かおる

〈午後の部〉 ワークショップ 13:30～15:30

① 学会誌論文「エレン・ウエストの症例」をもとに

摂食障害を考える自由討論

河野 貴代美

② 女の働き方を考える

田中和子、平川和子、深沢純子、右衛門佐美佐子

③ 第1日のシンポジウムをもとに「アジアの女性学を創る」話し合い

船橋 邦子 ほか

■大会参加要領

直接会場へおこしてください。

懇親会はどなたもご参加になれますが、予約が必要です。参加希望の方は、はがきかファックスで6月6日までにお申し込みください。

■主 催／日本女性学会 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21 日本学会事務センター気付
☎ 03-5814-5801